募集概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートします。

そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けて防災教育チャレンジプランアドバイザーが出向くなどして相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会（最終報告会）で発表、さらに1年間実践した結果を、交流フォーラム（中間報告会）と活動報告会（最終報告会）で成果を発表していただきます。

活動報告会（最終報告会）においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞、防災教育優秀賞、防災教育特別賞を授与します。
また、皆さんのチャレンジプランの成果はホームページなどで広く公開します。

【サポートの内容】
- ●プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による）
  ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。
- ●交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会（最終報告会）発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3回分）
- ●プランの実現に向けて、実行委員会が認定する防災教育チャレンジプランアドバイザーが助言や現地指導等の支援を行います。
- ●防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種webツールを提供します。

【サポート主体】
- ●防災教育チャレンジプラン実行委員、防災教育チャレンジプランアドバイザーおよび防災科学技術研究所研究員
- ●防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
- ●その他、実行委員・アドバイザー等が紹介する諸団体

【表彰】
- ●活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、表彰状と盾を授与いたします。
- ●防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

応募資格

・防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）
・採用された場合は、都内にて開催予定の実践団体決定会、中間報告会、最終報告会の計3回の会合に出席できること。

応募部門（プランの対象別）

A. 保育園・幼稚園等の部　B. 小学校低学年の部　C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部　E. 高等学校の部　F. 大学・一般の部

応募方法

ホームページ（http://www.bosai-study.net）より事前登録後、応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上ホームページへアップロードしてください。

応募締め切り　2018年11月22日(木)

審査

「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定します。
審査の結果は、事務局よりメイルにて応募団体へご連絡します。（応募締め切り後1ヶ月程度）

［審査の観点］
・プラン実施により地域防災力の向上に貢献できること
・応募された防災教育プランの有効性・新規性
・活動の中に新しいチャレンジの要素が含まれているもの

［次年度チャレンジプランの発表］
・当年度の活動報告会（最終報告会）の会場にて、次年度チャレンジプランの計画を発表いただきます。

応募先・問い合わせ先

防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail：cpinfo2865@bosai-study.net　／　FAX：03-3556-8217

河川基金　公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

Disaster Management Education Challenge Plan
防災教育チャレンジプランの流れ

プラン開発・実施／教材づくり／連携体制づくり

1 募集
応募締切2018年11月22日(木)
教育・社会福祉施設／教育委員会／NPO／地域団体／個人

2 審査
2019年1月

3 決定発表
2019年2月23日（土）
2018年度防災教育チャレンジプラン活動報告会
開催（会場：東京大学 地震研究所1号館）
○2019年度チャレンジプラン発表
○2018年度チャレンジプラン成果発表・表彰
（防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定）
○学校や団体等、防災教育関係者の情報交換等

4 実践
2019年4月～2020年3月
2019年度
防災教育チャレンジプランの実践
○チャレンジプランへのサポート
プラン進行や教材作成にあたってのアイディア提供・資材提供等
○アドバイザー等の紹介・派遣等

5 中間報告
2019年10月（予定）
2019年度防災教育交流フォーラム
開催（会場：都内にて開催予定）
○2019年度チャレンジプラン中間報告
○交流会・意見交換会
○学校や団体等、防災教育関係者の情報交換・事例紹介等

6 成果報告
2020年2月（予定）
2019年度防災教育チャレンジプラン活動報告会
開催（会場：都内にて開催予定）
○2019年度チャレンジプラン成果発表・表彰
（防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定）
○防災教育チャレンジプランサポーターに認定
○2020年度チャレンジプラン発表

2018年度防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員一覧

委員長
林　春男　国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長
市川　啓一　株式会社レスキューナウ危機管理研究所 代表取締役
井上　浩一　防災ネットワークプラン 代表
鍵屋　一　跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授
金田　義行　香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長
地域強靭化研究センター長 特任教授
木村　玲欧　兵庫県立大学 環境人間学部 准教授
国崎　信江　株式会社危機管理教育研究所 代表
栗田　暢之　認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
齊藤　清一　特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局長
酒井　慎一　東京大学地震研究所 観測開発基盤センター 准教授
佐藤　公治　南三陸町立歌津中学校 主幹教諭
佐藤　健　東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野 教授
澤野　次郎　災害救援ボランティア推進委員会 委員長
篠田　貴司　足立区立第九中学校 主任教諭
島崎　敢　国立研究開発法人防災科学技術研究所社会防災システム研究部門 研究員
諏訪　清二　防災学習アドバイザー・コラボレーター
瀧川　猛　千葉県立長生特別支援学校 教頭
中川　和之　株式会社時事通信社 解説委員
中村　一樹　国立研究開発法人防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター
センター長補佐・研究推進室長
平田　直　東京大学地震研究所 地震予知研究センター センター長・教授
福和　伸夫　名古屋大学 減災連携研究センター センター長・教授
舩木　伸江　神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 准教授
舟生　岳夫　セコム株式会社IS研究所リスクマネジメントG 主務研究員
松尾　知純　防災ゲート・パートナーズ 代表
南島　正重　東京都立両国高等学校附属中学校 主幹教諭

五島　政一　国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
佐谷　説子　内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）
田中　昇治　消防庁国民保護・防災部 防災課 地域防災室 地域防災室長
林　正道　内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）
松浦　直　国土交通省水管理・国土保全局防災課 緊急災害対策企画調整官
村山　綾介　文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室 室長
（2018年8月17日現在、所属役職別50音順、敬称略）

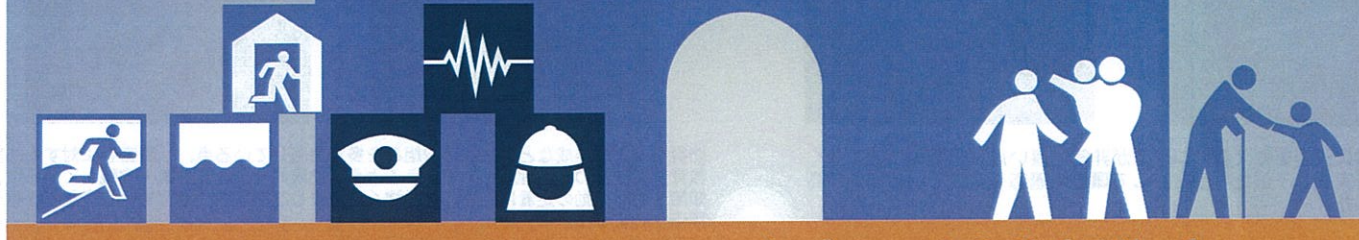
2019年度 防災教育チャレンジプラン募集

Disaster Management Education Challenge Plan

防災教育チャレンジプランとは？

全国の地域や学校で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や、質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートする取組です。

防災教育交流フォーラム
2018年10月27日（土）
2018年10月28日（日）
都内にて開催予定



応募締め切りは
2018年11月22日（木）

防災教育チャレンジプラン活動報告会

2019年2月23日（土）：東京大学　地震研究所1号館（入場無料）

2018年度防災教育チャレンジプラン実践団体による成果発表と、新たに採択された2019年度防災教育チャレンジプラン実践団体による１年間の活動プランの発表を行います。
ご来場の際にはホームページ（http://www.bosai-study.net）にて事前登録をお願いします。

主　催：防災教育チャレンジプラン実行委員会、内閣府（防災担当）、国立研究開発法人 防災科学技術研究所
共　催：東京大学 地震研究所
後　援：消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会

www.bousai-study.net

防災教育チャレンジプラン
Disaster Management Education Challenge Plan

実践活動のご紹介
詳しくは、ホームページにて www.bosai-study.net

1年の流れ（イメージ）

応募・決定 ／ 準備期間 ／ 活動期間 ／ サポーター認定

- 2月（最終報告会）
- 4月
- 6月
- 8月
- 10月（中間報告会）
- 12月
- 2月（最終報告会）
- 3月

例（A）　○○工業高校

プランの対象者：高校生
小学生（高学年）
保護者・PTA
地域住民・社会人
一般・高齢者等

かまどベンチづくりで子どもからお年寄りまで参加し、防災減災に欠かせない「人のつながり」をつくり被災後の心のケアにつなげると共に、学校や行政ととの連携を研究し災害に強い地域を作ることを目的とした事例

- 活動計画の発表に向けた発表資料の準備
- 応募締め切り11月頃（応募資格・方法・審査の観点は裏面をご確認ください）
- **活動計画の発表（活動報告会にて）**
- 活動報告会での助言を受けて、活動計画の見直し
- 活動準備
  - 材料・器具の準備
  - かまど調査研究
  - 高齢者災害時生活支援学習
  - 意見交換会開催
  - プランの具体化
- 製作交流活動①
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- 製作交流活動②
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- かまど施工方法研究
- 土砂災害学習
- 気象実験実演練習
- ●活動成果発表（夏季）
- 製作交流活動③
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- ●活動成果発表（秋季）
- かまど完成交流
- **中間成果の発表（交流フォーラムにて）**
- 製作交流活動④
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- 異年齢交流で協力の大切さや相互の豊かな心を育う
- 活動普及継続計画
  - かまど模型制作活動
  - 炊き出し実演・展示
  - 成果発表地域交流
  - 継続・普及のための出版活動
- 最終成果の発表に向けた発表資料の準備
- HPへテキストの公開
- ●ワークショップ開催（第5回）
- ●ワークショップ開催（第4回）
- 開催準備
  - 参加者の募集
- ●ワークショップ開催（第3回）
- 就回同様プラス FMラジオ
- 開催準備
  - 参加者の募集
  - 募集方法・プログラムを改良
  - 中間報告会での助言を受け、
- ●ワークショップ開催（第2回）
- ●ワークショップ開催（第1回）
- 開催準備
  - 参加者の募集
  - ワークショップ広報
  - チラシ配布
  - HPでの公開
  - 子育て当事者のボランティアグループへの働きかけ
- 機材の準備
- ワークショップのチラシ作成
- テキスト原稿入稿
- 活動準備
  - 涉外・打ち合わせ
  - 地元NPOとの連携
  - 事務局へ相談
  - 防災に取り組む団体から専門性を提供してもらう
  - NPO・ボランティア・市
  - 計約15回
  - プランの具体化
- **最終成果の発表（活動報告会にて）**
- サポーター認定
- 成果品の提出
- ー成果ー
  手作り活動（製作のプロセス）をすることによって、人と人の絆、つながりが強まった。
  その結果、災害に対する想像力や減災に対する想像力を豊かにし、たくましく生きる力を身につけた。
- ●その後 継続して活動

例（B）　○○防災会

教育対象者：地域住民・防災関係者

保護者・自治体・地域住民に対する「子どもに関する防災意識」向上の呼びかけと教育モデルの提供を行うために、ワークショップに向けテキスト案を作成し、中間報告会において披露し、防災教育チャレンジプラン実行委員会の助言を参考にテキストの最終原稿を作成した事例

- 活動計画の発表に向けた発表資料の準備
- 応募締め切り11月頃（応募資格・方法・審査の観点は裏面をご確認ください）
- **活動計画の発表（活動報告会にて）**
- 活動報告会での助言を受けて、活動計画の見直し
- 活動準備
  - 材料・器具の準備
  - かまど調査研究
  - 高齢者災害時生活支援学習
  - 意見交換会開催
  - プランの具体化
- 製作交流活動①
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- 製作交流活動②
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- かまど施工方法研究
- 土砂災害学習
- 気象実験実演練習
- ●活動成果発表（夏季）
- 製作交流活動③
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- ●活動成果発表（秋季）
- かまど完成交流
- **中間成果の発表（交流フォーラムにて）**
- 製作交流活動④
  - ①土砂掘削
  - ②基礎コンクリート制作
  - ③レンガ積み
  - ④座板製作
  - ⑤仕上げ作業
- 異年齢交流で協力の大切さや相互の豊かな心を育う
- 活動普及継続計画
  - かまど模型制作活動
  - 炊き出し実演・展示
  - 成果発表地域交流
  - 継続・普及のための出版活動
- 最終成果の発表に向けた発表資料の準備
- HPへテキストの公開
- ●ワークショップ開催（第5回）
- ●ワークショップ開催（第4回）
- 開催準備
  - 参加者の募集
- ●ワークショップ開催（第3回）
- 就回同様プラス FMラジオ
- 開催準備
  - 参加者の募集
  - 募集方法・プログラムを改良
  - 中間報告会での助言を受け、
- ●ワークショップ開催（第2回）
- ●ワークショップ開催（第1回）
- 開催準備
  - 参加者の募集
  - ワークショップ広報
  - チラシ配布
  - HPでの公開
  - 子育て当事者のボランティアグループへの働きかけ
- 機材の準備
- ワークショップのチラシ作成
- テキスト原稿入稿
- 活動準備
  - 涉外・打ち合わせ
  - 地元NPOとの連携
  - 事務局へ相談
  - 防災に取り組む団体から専門性を提供してもらう
  - NPO・ボランティア・市
  - 計約15回
  - プランの具体化
- **最終成果の発表（活動報告会にて）**
- サポーター認定
- 成果品の提出
- ー成果ー
  適切に広報した結果、子どもを保育園に預ける前の、乳幼児の母親層のニーズが高いことが再確認された。
  実践内容そのものはユニークな内容ではないが、お母さんたちにとって身近な環境での防災教育推進に寄与していけるものとなった。
- ●その後 自立して活動展開

※報告会には、報告書（中間/最終）、発表資料（中間/最終）、展示資料[任意]、配布資料[任意]を準備していただきます。

過去の受賞団体と活動の様子

防災教育大賞　千葉県立矢切特別支援学校
「みんながわかるお天気学習」　～雲レーダーを活用した水害対策と気象学習～

支援学校の子供に天候を教えるプロセスが非常に良い点、天候について多くのプログラムを実施し子供たちが自立して環境に適応してきている点等が高く評価されました。

防災教育大賞　豊橋障害者(児)団体連合協議会（豊橋市障害者福祉会館さくらピア）
体験しよう備えよう　障害者の防災を考える集いさくらピア　避難所体験

防災グッズの作成など、独自の取組みを多く実践している点、「障害者に対する防災教育」を多くの人に理解してもらえるよう、効果的な企画を立案・実践している点、知識や避難行動の定着に向け、粘り強く、工夫しながら取り組んでいる点などが高く評価されました。

‘17

防災教育優秀賞　南阿蘇村立南阿蘇中学校
プロジェクトM(Minamiaso)～守ろう！自分の命・みんなの命～

つくば市立吾妻学園おやじの会
小中一貫防災プラン「つくば吾妻学園」

防災教育特別賞　葉山町立一色小学校避難所運営委員会
避難所運営委員会活動を通した、地震に強い学校・町づくり

一般社団法人　長洞元気村
好齢者（高齢者）が創る防災教育ビジネスプラン

‘16

防災教育優秀賞　大島町立小学校（つばき小学校・さくら小学校・つつじ小学校）
大人たちから子どもたちへ、子どもたちから大人たちへ、今伝えたいこと

東京都立足立工業高等学校
災害時に工業高校生として何が出来るか？自助・共助の精神を育成する教育。

防災教育特別賞　高知市立南海中学校
「まもれ　高知（ふるさと）」　Nankai Survival Project（NSP）

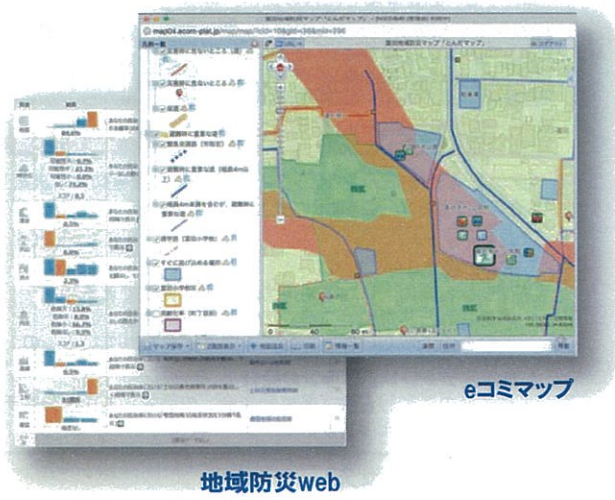
名古屋市立工芸高等学校　防災チーム
つなぐ　～地域、企業、行政、学校の架け橋を目指して～

活動に対する支援（例）

専門家からのアドバイス

甚大な気象災害（風水害、土砂災害、雪崩被害など）を引き起こす可能性のある、集中豪雨や雷・雹・竜巻などの極端気象、台風、大雪等について研究している研究者からの専門的なアドバイスを受けることができます。

防災活動支援ツールの提供



参加者の防災活動に必要な地域情報の入手・発信ができる情報ツール（1,2）を提供します。

1. 地域の災害情報に加え，防災研究者が開発した手法や、それを使った事例を検索できる「地域防災web」
2. 既存のハザードマップを下敷きに様々な情報を自由に登録・印刷できる「eコミマップ」